

細胞培養技術

Weekly Intelligence Report

2026-05-09 | 22件 | 8カ国

troy-technical.jp

今週のキーワード

培養肉量産化

培地コスト削減と大規模実証が加速

22

件
記事数

8

カ国
対象国

505.4

億ドル
細胞培養市場(2033)

大幅削減

培養肉培地コスト

今週的全22記事 — 5軸評価で読むべき記事を選ぶ

各列の見方 — 技術新規性: ブレークスルー度合い 実用化距離: 製品として使える近さ 市場インパクト: 業界全体への影響規模
データ信頼性: 定量データ・査読の有無 日本関連度: 日本の企業・サプライチェーンとの直接的関連性

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#01	シングルユースバイオリアクター	製品紹介	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	細胞治療薬製造のスケラビリティ向上に特化したシングルユースバイオリアクターが発表され、cGMP製造まで対応。
#02	VersaWeldチューブ溶接	新製品	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	EnsorcellがCGT製造向け精密無菌チューブ溶接プラットフォームを発表し、INTERPHEX 2026で最優秀新製品賞を受賞。
#03	エコラボ韓国施設	企業戦略	●●○○ ○	●●●● ●	●●●○ ○	●●●● ○	●●●● ○	エコラボが韓国にアジア初のバイオプロセッシング施設を開設し、アジア太平洋地域のバイオ医薬品メーカーの下流工程開発を現地で支援。
#04	FDA遺伝子治療ガイダンス	規制動向	●●○○ ○	●●●● ●	●●●● ○	●●●● ●	●●●● ○	米国FDAが遺伝子治療のCMC要件に関する柔軟性ガイダンスを発表し、非伝統的製法への受容性を示し開発を合理化。
#05	細胞治療製造自動化	企業協業	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	Cellular OriginsがImmaticsと協業し、自動モバイルロボットプラットフォーム「Constellation」で細胞治療製造の自動化を推進。
#06	ザルトリウス決算	企業決算	●○○○ ○	●●●● ●	●○○○ ○	●●●● ○	●○○○ ○	ザルトリウス・ステディム・バイオテックが2026年第1四半期決算を発表し、売上高と純利益の改善、通期ガイダンスを再確認。
#07	Figurate SCADA発表	新製品	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	CytivaとRockwell Automationが、デジタルバイオ医薬品製造を効率化するオープンアーキテクチャのFigurate SCADAプラットフォームを発表。
#08	Organoid Farm培養牛肉	技術実証	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●● ○	●●●● ●	日本のOrganoid Farmが200リットル規模の培養牛肉生産実証試験を完了し、2028年までの新工場稼働を目指す。
#09	AI制御バイオリアクター	市場予測	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●○ ○	AI制御の還流バイオリアクター市場が2030年までに48.5億ドルに達すると予測され、効率向上とコスト削減を牽引。
#10	ドイツ精密発酵市場	市場予測	●○○○ ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●○○○ ○	ドイツの精密発酵成分市場が2035年までにCAGR28-34%で急成長し、AI駆動の菌株設計と還流バイオリアクターが牽引。
#11	サムスンバイオ戦略	企業戦略	●○○○ ○	●●●● ●	●●●● ○	●●●● ○	●●●● ○	サムスンバイオロジクスが2027年開設のオープンイノベーションセンター「C-Lab Outside」を発表し、韓国バイオテックの成長を促進。
#12	サムスンバイオ評価	企業評価	●○○○ ○	●●●● ●	●○○○ ○	●●●○ ○	●○○○ ○	サムスンバイオロジクスがダウ・ジョーンズ「ベスト・イン・クラス・ワールド・インデックス」に5年連続で選出され、持続可能な成長を再確認。

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#13	味の素培地新技術	技術開発	●●●●○ ○	●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●●○ ●	味の素が細胞性食品の培地コスト削減のため、トランスフェリンをヒノキチオールで代替する新技術を開発し、培養肉商業化を加速。
#14	MiniVec™特許取得	新技術	●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●○ ○	VectorBuilderが次世代プラスミド骨格「MiniVec™」の欧州特許を取得し、遺伝子治療の安全性と製造効率向上に貢献。
#15	SUバイオプロセシング市場	市場予測	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●○ ○	●●●●○ ○	シングルユースバイオプロセシング市場が2035年に1229億2000万ドルに拡大予測され、細胞・遺伝子治療需要が牽引。
#16	がん免疫療法市場	市場予測	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●●○ ●	●●●○ ○	●●●●○ ○	がん免疫療法市場が2035年に3635億ドルに拡大予測され、個別化医療と次世代細胞療法が成長を牽引。
#17	BIO KOREA 2026	イベント報告	●●●○ ○	●●●●○ ●	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●○ ○	BIO KOREA 2026が59カ国から775社が参加し成功裏に閉幕、グローバルな協力プラットフォームとしての地位を確立。
#18	DNAシーケンシング市場	市場予測	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●○ ○	●●●●○ ○	DNAシーケンシング市場が2035年に886億ドルに拡大予測され、精密医療とバイオテクノロジー革新を牽引。
#19	細胞培養市場予測	市場予測	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●●○ ●	●●●○ ○	●●●●○ ●	世界の細胞培養市場が2033年までに505.4億ドルに到達予測され、バイオ医薬品産業の成長が牽引。
#20	セルリソースxENCel	企業協業	●●●○ ○	●●●●○ ●	●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●●○ ●	セルリソースが韓国のCGT CDMOであるENCelと戦略的提携を発表し、日韓両市場でのビジネス機会拡大を目指す。
#21	EirGenix日本強化	企業戦略	●●●○ ○	●●●●○ ●	●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●●○ ●	グローバルCDMOのEirGenixがCPHI Japanに出展し、日本の政策進化とサプライチェーン変革に対応し日本市場での基盤を強化。
#22	Maravai決算	企業決算	●●●○ ○	●●●●○ ●	●●●○ ○	●●●●○ ○	●●●○ ○	Maravai LifeSciencesが2026年第1四半期に売上高41%増で黒字転換を達成、細胞・遺伝子治療市場での存在感が寄与。

●●●●○ 高 ●●●○ 中高 ●●●○ 中 ●●●○ 低 | 背景黄色=注目記事

今週、判断に影響する3つの問い

① 培養肉のコスト障壁、自社技術で突破できるか？

味の素が培地コスト削減の新技術を発表。高価なトランスフェリンを植物由来のヒノキチオールで代替し、培養肉の商業化を加速する可能性。自社の材料技術や発酵技術で同様のブレークスルーは可能か、検討が必要です。

② CGT製造の自動化・規制緩和は、日本の競争力を高めるか？

米国FDAが遺伝子治療のCMC柔軟性ガイダンスを示し、製造自動化技術も進展。韓国ではCDMOがエコシステムを強化。日本の規制環境や製造インフラは、このグローバルな動きに追随し、競争力を維持・向上できるか、緊急の課題です。

③ バイオ製造のデジタル化・シングルユース化への投資は十分か？

AI制御バイオリクターやSCADAプラットフォーム、シングルユースシステムの市場が急成長。日本のバイオ医薬品・細胞治療製造企業は、これらのデジタル化・効率化技術への投資を加速し、国際競争力を確保できているか、再評価が必要です。

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」マトリクス



項目	象限	↑ 機会	↓ 脅威
● 培地コスト減	機会大	培養肉コスト競争力向上	—
● 培養肉量産	機会大	国内培養肉市場確立	—
● CGT規制緩和	注意	新規製法導入加速	日本の規制遅延リスク
● 細胞培養市場	注意	関連材料・装置需要増	海外勢の市場席巻
● SU市場拡大	注意	部品・装置供給機会	既存設備投資陳腐化
● 韓国CGT強化	脅威大	—	日本の競争力低下
● 製造自動化	注意	効率化・品質向上	導入遅れで競争力喪失
● 日韓CDMO	機会大	日本市場へのCGT導入	—

深掘り ① — 遺伝子治療CMC規制の柔軟化

#04 | 2026/05/07 | Citeline News & Insights | 技術新規性 ●●○○○ 実用化距離 ●●●●● 市場インパクト ●●●●○
データ信頼性 ●●●●● 日本関連度 ●●●●○

米国FDAが細胞・遺伝子治療（CGT）製品のCMC（Chemistry, Manufacturing, and Controls）要件に関する新たなガイダンスを発表。既存規制の柔軟な適用を明確化し、初期臨床開発から市販承認まで段階的なアプローチの具体例を提供。

このガイダンスは、CGTに固有の複雑で進化する生産課題を認識し、非伝統的な製造方法へのFDAの受容的な姿勢を示すもの。革新的な製造アプローチの登場が続くCGT分野において、開発および承認経路の合理化を目的としている。

▶ 規制とイノベーションの狭間

FDAがCGTのCMC規制に柔軟性を持たせたことは、この分野の急速な技術進化と多様な製造アプローチを後押しする画期的な動きです。特に、非伝統的な製法への受容性を示した点は、新しいバイオリクターや自動化システム、AIを活用したプロセス最適化技術の開発を加速させるでしょう。【機会】日本の材料・装置メーカーにとっては、この柔軟な規制環境下で新たな製造技術や材料を提案し、グローバル市場に参入するチャンスです。日本のPMDAも同様の規制緩和を検討することで、国内のCGT開発が加速し、関連産業が活性化する可能性があります。【脅威】しかし、日本の規制当局がこの動きに遅れると、国内のCGT開発が国際競争力を失い、海外の先進的な製造技術やCDMOへの依存度が高まるリスクがあります。特に、品質管理やデータ管理の基準がグローバルスタンダードから乖離しないよう、迅速な対応が求められます。未解決課題としては、柔軟な規制が適用される範囲の明確化と、それに伴う品質保証の新たなフレームワーク構築が挙げられます。

深掘り ② — 培養肉のコスト革命：味の素の新培地技術

#13 | 2026/05/07 | Foovo | 技術新規性 ●●●●○ 実用化距離 ●●○○○ 市場インパクト ●●●●○ データ信頼性 ●●●●○
日本関連度 ●●●●●

味の素が細胞性食品（培養肉）の生産コストを大幅に削減する新技術を開発。高価な動物由来成分であるトランスフェリンを、植物由来のヒノキチオールで代替することに成功した。

同社はバイオ医薬品・再生医療用培地事業で培った専門知識を活かし、培養肉のバリューチェーンへの参入を目指す。培地コストは培養肉製造の最大の課題の一つであり、この技術は商業化を大きく加速させる可能性を秘める。

▶ 培養肉商業化の鍵

培養肉の商業化における最大の障壁は、高価な細胞培養培地です。味の素によるヒノキチオールでのトランスフェリン代替は、このコスト課題に直接的にアプローチする画期的な技術であり、その数値的なコスト削減効果に注目が集まります。植物由来成分への転換は、倫理的側面からも市場受容性を高めるでしょう。【機会】日本の食品・素材メーカーにとっては、培養肉市場への参入機会が大きく広がります。培地成分の開発だけでなく、培養プロセス全体の最適化、スケールアップ技術、さらには培養肉の風味や食感を改善する機能性材料の開発など、多岐にわたるビジネスチャンスが生まれます。【脅威】もしこの技術が他社に先行されると、日本の培養肉産業全体がコスト競争力で劣勢に立たされる可能性があります。また、ヒノキチオールの安定供給や、他の細胞種への適用可能性、長期的な安全性評価なども今後の課題となるでしょう。次のアクションとして、味の素の発表する具体的なコスト削減率や、他の細胞株での検証データ、そして量産体制構築に向けたロードマップを注視し、自社技術との連携可能性を検討すべきです。

深掘り ③ — 日本発！培養牛肉の大規模生産実証

#08 | 2026/05/07 | FoodNavigator-Asia.com | 技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○
データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●●

日本のバイオテクノロジー企業Organoid Farmが、200リットル規模の培養牛肉生産実証試験を成功裏に完了。牛筋肉細胞の培養から最終製品収穫まで全工程を網羅し、国内最大規模の細胞農業生産試験の一つとなった。

同社は2028年までに新生産施設を設立し、製造規模の拡大と追加の培養食品プロトタイプ開発を目指す。継続的に増殖能力を示す独自の牛筋肉細胞株を強調しており、高い生産量への期待が高まる。

▶ 培養肉量産化への道

200リットル規模での培養牛肉生産実証は、培養肉の商業化に向けた重要なマイルストーンです。特に、独自の細胞株の増殖能力は、将来的なコスト削減と安定供給の鍵を握ります。2028年という具体的な工場稼働目標は、この分野における日本の本気度を示しています。【機会】日本の食品メーカーや設備メーカー、培地サプライヤーにとっては、国内市場での新たなサプライチェーン構築に参画する絶好の機会です。培養肉の量産技術は、バイオリアクター、培地、プロセス制御、品質管理など多岐にわたる技術要素の集合体であり、各分野での技術貢献が期待されます。【脅威】一方で、培養肉の規制承認枠組みの確立が遅れると、技術開発が進んでも市場投入が滞る可能性があります。また、海外の巨大企業が先行して大規模生産体制を確立した場合、国内市場が席巻されるリスクも考慮すべきです。今後の課題は、200リットルからさらに大規模な数千リットル規模へのスケールアップ技術の確立と、最終製品の品質（味、食感、栄養価）の最適化です。政府機関と連携し、規制承認の迅速化も不可欠です。

その他の注目記事

細胞培養市場、2033年までに505.4億米ドルに到達予測 (openPR.com)

技術新規性●○○○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●●

バイオ医薬品・再生医療の需要増が牽引し、細胞培養市場が急拡大。日本企業もこの成長市場で存在感を示す機会。

がん免疫療法市場、2035年に3635億米ドル到達へ (アットプレス)

技術新規性●○○○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●●

個別化医療と次世代細胞療法が牽引するがん免疫療法市場は、日本の製薬・医療機器メーカーにとって大きな成長機会。

シングルユースバイオプロセス市場、2035年に1229億2000万米ドル規模へ拡大 (NEWSCAST)

技術新規性●○○○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○

細胞・遺伝子治療の需要増がシングルユース市場を牽引。日本のCDMOや部品メーカーは、このトレンドへの対応が急務。

サーモフィッシャーサイエンティフィックがGibco CTS DynaXSシングルユースバイオリアクターを発表 (Vertex AI Search)

技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●○○

細胞治療薬製造のスケラビリティ向上に特化した新バイオリアクター。日本の細胞治療メーカーは導入を検討すべき。

AI制御による還流バイオリアクター市場の新たなサブセグメントが市場を牽引 (openPR.com)

技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○

AIによるプロセス最適化はバイオ製造の効率を劇的に向上させる。日本の装置メーカーはAI技術の統合を急ぐべき。

今週のアクション提案

記事評価マトリクスと機会/脅威分析を踏まえたアクション提案です。

■ 即時（今週中）

- 【R&D;】味の素の培養肉培地技術（ヒノキチオール代替）の詳細を調査し、自社の培地開発や培養肉関連技術への応用可能性を検討。
- 【経営企画】米国FDAの遺伝子治療CMC柔軟性ガイダンスを精査し、日本のPMDAへの提言や国内規制環境への影響を分析。

■ 短期（1ヶ月）

- 【調達/半導体PKG/EV設計】シングルユースバイオプロセッシング市場の主要プレイヤーと製品動向を調査し、自社の製造プロセスへの導入可能性とサプライヤー評価を開始。
- 【R&D;/生産技術】AI制御バイオリクターや製造自動化プラットフォーム（SCADA等）の最新動向を調査し、自社製造ラインへの導入による効率化・品質向上策を立案。
- 【経営企画】韓国のバイオテックエコシステム強化（サムスンバイオ等）の動向を継続的にモニタリングし、日本企業の競争力維持・向上に向けた戦略を検討。

■ 中長期（四半期～）

- 【R&D;/経営企画】培養肉の商業化に向けた国内ロードマップを策定。培地コスト削減、大規模培養技術、規制承認の各フェーズにおける自社の役割と投資計画を具体化。
- 【R&D;/事業開発】がん免疫療法やDNAシーケンシング市場の成長を見据え、関連する材料、装置、サービス分野での新規事業機会を探索し、パートナーシップ戦略を構築。

細胞培養技術 採用記事全文集

出力日: 2026-05-09

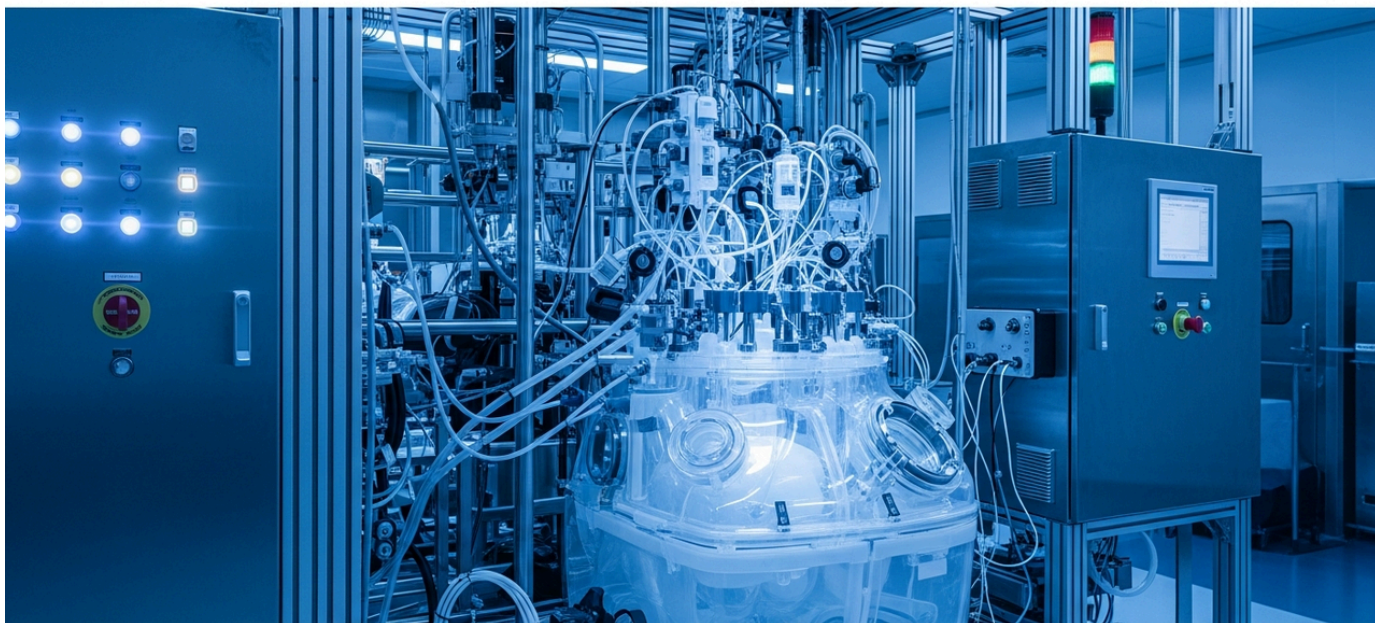
採用記事数: 22 件

収録記事一覧

01. サーマフィッシャーサイエンティフィックがGibco CTS DynaXSシングルユースバイオリアクターを発表
02. Ensorcell、VersaWeldプラットフォームを発表し、INTERPHEX 2026で最優秀新製品賞を受賞
03. エコラボ、韓国にアジア初のバイオプロセッシング施設を開設
04. 米国FDA、遺伝子治療CMC柔軟性ガイダンスで非伝統的製法への受容性を示す
05. Cellular Origins、Immaticsとの協業でスケーラブルな細胞治療製造の自動化を推進
06. ザルトリウス・ステディム・バイオテック（ENXTPA:DIM）、2026年第1四半期決算と再確認されたガイダンスが投資判断を変える可能性
07. CytivaとRockwell Automation、デジタルバイオ医薬品製造を効率化するFigurate SCADAプラットフォームを発表
08. 日本のOrganoid Farm、2028年の工場稼働を控え200リットルの培養牛肉試験を完了
09. AI制御による還流バイオリアクター市場の新たなサブセグメントが市場を牽引
10. ドイツの精密発酵成分市場、2035年までにCAGR28-34%で急成長の見込み
11. サムスンバイオロジクス、韓国バイオテックの未来を再形成する大規模な動きを発表
12. サムスンバイオロジクス、ダウ・ジョーンズ「ベスト・イン・クラス・ワールド・インデックス」に5年連続で選出
13. 味の素、細胞性食品の培地コスト低減に新技術 ヒノキチオールでトランスフェリン代替へ
14. VectorBuilder、「MiniVec™」プラスミドシステムで欧州特許を取得
15. シングルユースバイオプロセッシング市場、2035年に1229億2000万米ドル規模へ拡大 革新的バイオ製造を加速するCAGR15.1%成長ドライバー
16. がん免疫療法市場、2035年に3635億米ドル到達へ 個別化医療と次世代細胞療法の普及で年平均成長率9.02%を記録
17. BIO KOREA 2026、59カ国から775社が参加しグローバルプラットフォームとしての地位を確立
18. DNAシーケンシング市場、2035年に886億米ドル到達 精密医療とバイオテクノロジー革新を牽引するCAGR17.62%の高成長トレンド
19. 細胞培養市場、2033年までに505.4億米ドルに到達予測
20. 再生医療を未来へつなげる挑戦 ～セルリソーシズ(株)×韓国CDMO企業ENCellの協業を通じて～
21. EirGenix、CPHIジャパンに出展し日本での戦略的基盤を強化
22. Maravai、2026年第1四半期に売上高41%増で黒字転換を達成

サーモフィッシャーサイエンティフィックがGibco CTS DynaXSシングルユースバイリアクターを発表

公開日 2026年05月04日 Vertex AI Search 米国



概要

サーモフィッシャーサイエンティフィックは、細胞治療薬製造のスケラビリティ向上に特化した新製品「Gibco CTS DynaXSシングルユースバイリアクター」を発表しました。このシステムは、開発初期からcGMP製造まで細胞培養をサポートし、精密な制御、柔軟性、規制対応能力を提供します。同社のCell Therapy Systems (CTS) ポートフォリオに統合されており、細胞分離から下流工程までシームレスなワークフローを実現します。

詳細

サーモフィッシャーサイエンティフィックは、細胞治療薬製造のスケラビリティを大幅に向上させることを目的とした、画期的な新製品「Gibco CTS DynaXSシングルユースバイオリアクター」を市場に投入しました。この革新的なプラットフォームは、細胞治療薬開発者に対し、製造プロセス全体にわたる精密な制御、優れた柔軟性、および規制への対応能力を提供するために設計されています。

本システムは攪拌槽型で、開発初期のプロセス開発バッチから、より大規模なcGMP製造ランまで、細胞の増殖を効果的にサポートします。また、サーモフィッシャーの広範なCell Therapy Systems (CTS) ポートフォリオと完全に統合されており、細胞分離から下流工程に至るまで、シームレスで効率的なワークフローを可能にします。この技術の導入は、細胞治療が腫瘍学を超えて幅広い治療適応症に拡大し続ける中で、堅牢でスケラブルな製造ソリューションに対する喫緊のニーズに対応するものです。これにより、治療法の提供が加速し、より多くの患者に到達することが期待されています。

元記事: #

Ensorcell、VersaWeldプラットフォームを発表し、INTERPHEX 2026で最優秀新製品賞を受賞

公開日 2026年05月01日 Vertex AI Search 米国



概要

EnsorcellはINTERPHEX 2026で細胞・遺伝子治療（CGT）製造分野に参入し、VersaWeld精密無菌チューブ溶接プラットフォームを発表しました。このプラットフォームは最優秀新製品賞を受賞し、CGT製造における無菌流体移送の課題を解決します。熱可塑性チューブの精密かつ再現性の高い無菌溶接を提供し、手動接続工程の自動化によりオペレーターのばらつきや工程逸脱を削減します。

詳細

Ensorcellは、INTERPHEX 2026において細胞・遺伝子治療（CGT）製造分野への公式参入を果たし、その革新的な「VersaWeld精密無菌チューブ溶接プラットフォーム」を発表しました。このプラットフォームは、同イベントで「最優秀新製品/サービス賞」を受賞し、業界からの高い評価と需要を明確に示しました。

VersaWeldは、CGTおよび先進的なバイオ医薬品製造がスケールアップする際に生じる、極めて重要な無菌流体移送の課題に対処するために設計されています。様々な材料や直径の熱可塑性チューブに対し、精密かつ再現性の高い無菌溶接を提供し、接続の完全性を維持しながら妥協点を最小限に抑えます。これまで手動で行われていたこれらの無菌接続工程を自動化することで、オペレーター間のばらつきや工程逸脱、そして複雑なCGTワークフローにおける潜在的なボトルネックを削減することが期待されます。これにより、標準化され、スケラブルなバイオ製造インフラの開発が強力にサポートされます。

元記事: #

エコラボ、韓国にアジア初のバイオプロセッシング施設を開設

公開日 2026年05月05日 BioProcess International 米国



概要

エコラボライフサイエンスは、アジア初となるバイオプロセッシング施設「Bioprocessing Applications Lab (BPAL)」を韓国の東灘に開設しました。この戦略的な動きは、アジア太平洋地域のバイオ医薬品メーカーに重要な下流工程開発サポートを提供することを目的としています。現地の資源を提供することで、米国や英国の既存施設に樹脂や研究材料を送る必要がなくなり、物流上の課題を克服します。

詳細

エコラボライフサイエンスは、アジアにおける初のバイオプロセッシング施設となる「Bioprocessing Applications Lab (BPAL)」を韓国の東灘に設立しました。この戦略的な拠点の開設は、アジア太平洋 (APAC) 地域のバイオ医薬品メーカーに対して、不可欠な下流工程開発サポートを提供することを目的としています。

エコラボは、アジアがスケーラブルな下流精製ソリューションに対する需要がますます高まっている、ダイナミックで拡大するバイオ医薬品製造の中心地であると認識しています。BPALは、現地で資源を提供することで物流上の課題を克服し、米国や英国の既存施設に樹脂や研究材料を輸送する必要性を排除します。この投資は、アジアのバイオ医薬品業界が統合されたエンドツーエンドのエコシステムへと進化し、プロセス開発と最適化能力の向上に焦点を当てていることを強調しています。

元記事: #

米国FDA、遺伝子治療CMC柔軟性ガイダンスで非伝統的製法への受容性を示す

公開日 2026年05月07日 Citeline News & Insights 米国



概要

米国FDAは、細胞・遺伝子治療（CGT）製品のCMC（Chemistry, Manufacturing, and Controls）要件に関する新たなガイダンスを発表しました。これにより、既存の規制の柔軟性をどのように適用できるか明確化されています。このガイダンスは、初期臨床開発から市販承認までのCMC基準に対する段階的なアプローチの具体例を提供し、非伝統的な製造方法へのFDAの受容的な姿勢を示しています。

詳細

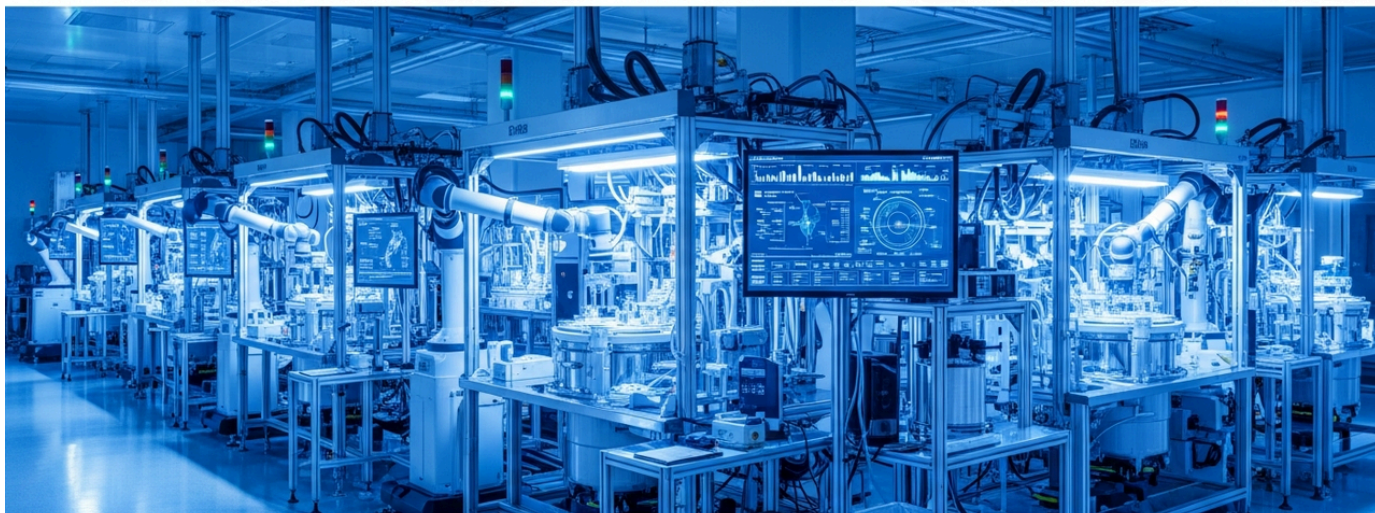
米国食品医薬品局（FDA）は、細胞および遺伝子治療（CGT）製品の化学・製造・品質管理（CMC）要件に関する新たなガイダンスを発表しました。このガイダンスは、既存の規制の柔軟性をどのように適用できるかを明確にするものです。新たなポリシーを導入するものではなく、初期臨床開発から市販承認までのCMC基準に対する段階的なアプローチに関する具体例を提供しています。

これは、CGTに固有の複雑で進化する生産課題を認識し、非伝統的な製造方法に対するFDAの受容的な姿勢を示すものです。主な目的は、より明確な規制上の期待を提供することで、遺伝子治療の開発および承認経路を合理化することです。このような柔軟性は、革新的な製造アプローチが継続的に登場する急速に進化するCGT分野にとって極めて重要であると見なされています。

元記事: #

Cellular Origins、Immaticsとの協業でスケーラブルな細胞治療製造の自動化を推進

公開日 2026年05月05日 Outsourced Pharma 英国



概要

Cellular Originsは、臨床バイオ医薬品企業Immaticsと協力し、Immaticsの免疫腫瘍細胞治療薬の製造プロセスの一部自動化を進めると発表しました。この協業は、次世代細胞治療薬のより効率的でスケーラブルな製造に、先進的な自動化技術がどのように貢献できるかを研究するものです。Cellular Originsの自動モバイルロボットプラットフォーム「Constellation」が導入され、製造の一貫性、スケーラビリティ、運用効率の最適化を目指します。

詳細

Cellular Originsは、臨床段階のバイオ医薬品企業であるImmatics社との共同研究を発表しました。この協業は、Immatics社の免疫腫瘍学細胞治療薬の製造プロセスにおける特定の部分を自動化することを目的としています。この共同研究は、先進的な自動化技術が次世代細胞治療薬のより効率的でスケーラブルな製造にどのように貢献できるかを調査しようとしています。

Cellular Originsの自動モバイルロボットプラットフォーム「Constellation」が導入され、製造の一貫性、スケーラビリティ、運用効率の最適化が図られます。これらは、細胞治療薬の広範な普及にとってますます不可欠な要素です。このプログラムの初期段階は2026年に完了する予定です。この提携は、従来のGCT手動製造方法が、特に業界が固形腫瘍治療の複雑さに対処する中で、承認された治療法への患者アクセスを制限する可能性があるという認識の高まりを浮き彫りにしています。

元記事: #

ザルトリウス・ステディム・バイオテック (ENXTPA:DIM)、2026年第1四半期決算と再確認された ガイダンスが投資判断を変える可能性

公開日 2026年05月03日 Simply Wall St フランス



概要

ザルトリウス・ステディム・バイオテックは2026年第1四半期の決算を発表し、売上高7億6150万ユーロ、純利益8810万ユーロを計上しました。同時に、2026年通期の売上高成長率（恒常為替レート）を約5%から9%増と再確認しました。この結果は、バイオ医薬品機器分野における同社の事業モメンタムと需要見通しに対する経営陣の自信を反映しています。

詳細

ザルトリウス・ステディム・バイオテック（ENXTPA:DIM）は、2026年第1四半期の財務結果を発表し、売上高7億6150万ユーロ、純利益8810万ユーロを計上したことを報告しました。同時に、同社は2026年通期の定常為替レートでの売上成長率ガイダンスを、約5%から9%増と再確認しました。この売上と利益の緩やかな前年比改善と一貫したガイダンスの組み合わせは、バイオ医薬品機器分野における同社の事業モメンタムと需要見通しに対する経営陣の自信を反映しています。

しかし、報告書は、機器販売の長期的な低迷や、下半期のラボ製品&サービス部門の回復への依存など、潜在的なリスクも強調しました。この財務アップデートは、ザルトリウス・ステディム・バイオテックの現在の業績と、ダイナミックな市場環境における戦略的予測に関する重要な洞察を提供します。

元記事: #

CytivaとRockwell Automation、デジタルバイオ医薬品製造を効率化するFigurate SCADAプラットフォームを発表

公開日 2026年05月03日 BioPharma BoardRoom 米国



概要

CytivaとRockwell Automationは、デジタルバイオ医薬品製造を最適化するオープンアーキテクチャプラットフォーム「Figurate SCADAシステム」を共同で発表しました。このシステムはデジタルボトルネックを解消し、様々なバイオプロセッシングシステム間のシームレスな統合を促進します。製造業者がスケールアップを加速し、規制順守を改善し、運用上の洞察を深めるのに役立ちます。

詳細

ダナハー傘下のCytivaとRockwell Automationは共同で、デジタルバイオ医薬品製造を最適化するために設計されたオープンアーキテクチャプラットフォームである「Figurate Supervisory Control and Data Acquisition (SCADA) システム」を発表しました。Figurate SCADAは、デジタルボトルネックを排除し、多様なバイオプロセッシングシステム間のシームレスな統合を促進することを目的としています。

この新しいソリューションは、バイオメーカーがスケールアップを加速し、規制順守を改善し、運用に関する洞察を深めるのに役立つと期待されています。このプラットフォームは、Cytivaのバイオプロセッシング機器とRockwell AutomationのFactoryTalkソフトウェアスイートとのネイティブな相互運用性を備え、一貫性のあるデジタル製造エコシステムを構築します。最終的に、この協業は、大規模なシステム再設計を必要とせずに、プロセス開発から商業製造までのスケラブルな成長をサポートし、バイオ医薬品イノベーターにとってデジタル製造プロセスをより迅速、スマート、かつ費用対効果の高いものにすることを目指しています。

元記事: #

日本のOrganoid Farm、2028年の工場稼働を控え200リットルの培養牛肉試験を完了

公開日 2026年05月07日 FoodNavigator-Asia.com 英国



概要

日本のバイオテクノロジー企業Organoid Farmは、200リットル規模の培養牛肉生産実証試験を成功裏に完了しました。この試験は、牛筋肉細胞の培養から最終製品の収穫まで全製造工程を網羅し、日本における大規模な細胞農業生産試験の一つとなります。同社は2028年までに新生産施設を設立し、製造規模の拡大と追加の培養食品プロトタイプ開発を目指すと発表しました。

詳細

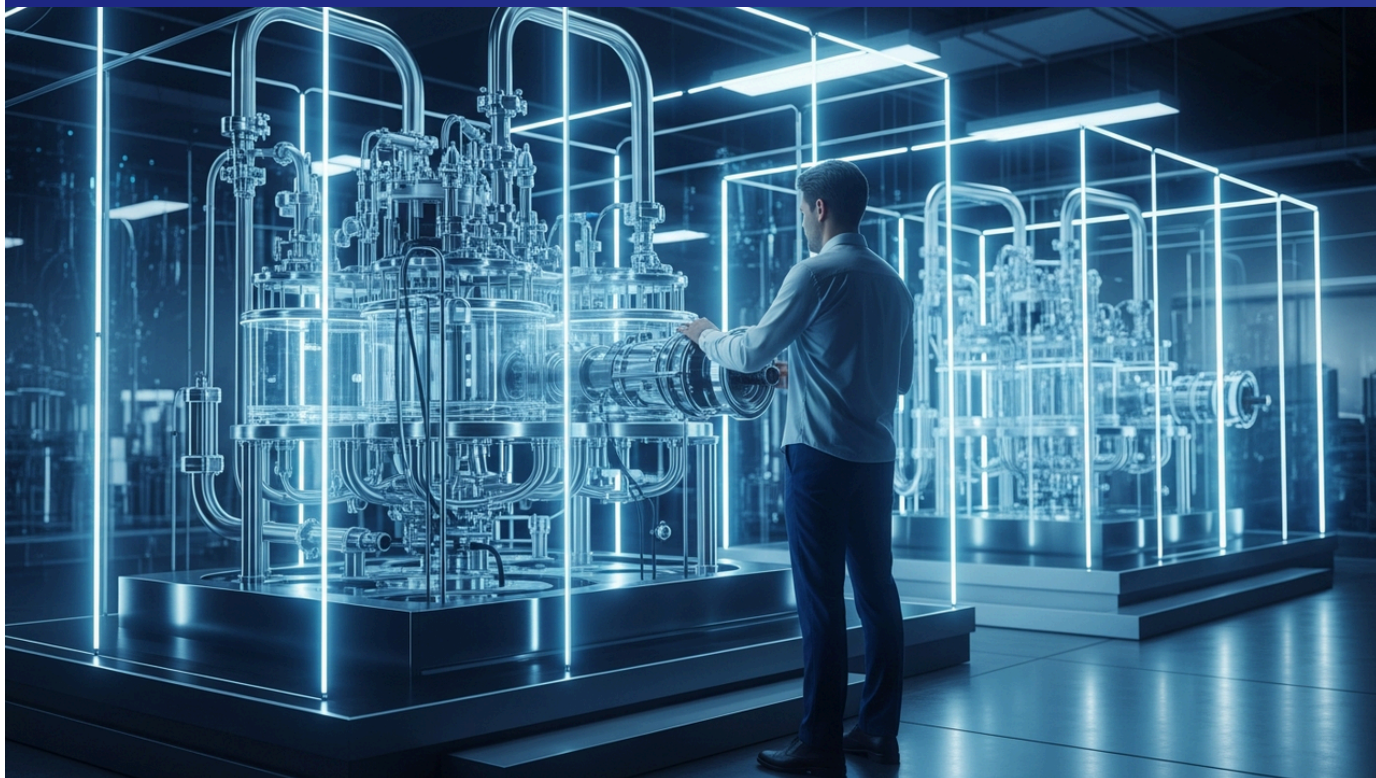
日本のバイオテクノロジー企業であるOrganoid Farmは、200リットル規模の培養牛肉生産実証試験を成功裏に完了しました。この試験は、牛筋肉細胞の培養から最終的な培養牛肉製品の収穫まで、製造シーケンス全体を網羅しており、日本で報告されている細胞農業生産試験の中でも大規模なものの一つです。

この成果と並行して、Organoid Farmは2028年までに新しい生産施設を設立する計画を発表しました。これにより、製造規模を拡大し、追加の培養食品プロトタイプを開発することを目指しています。同社は、継続的に増殖能力を示す独自の牛筋肉細胞株を強調しており、将来的に高い生産量が得られる可能性を示唆しています。この開発は、培養肉製品の規制承認枠組みを確立するための日本政府機関と業界団体間の継続的な議論と同時進行しています。

元記事: #

AI制御による還流バイオリアクター市場の新たなサブセグメントが市場を牽引

公開日 2026年05月04日 openPR.com (Press release from The Business Research Company) ドイツ



概要

AI制御の統合により、還流バイオリアクター市場は2030年までに48.5億ドルの評価額に達し、年平均成長率（CAGR）20.8%で大幅な成長が見込まれています。この拡大は、AIを活用したバイオ製造ソリューションへの投資増加、細胞・遺伝子治療の需要拡大、および連続製造プロセスの幅広い採用によって推進されています。AIは、プロセスの効率向上、生産コスト削減、細胞増殖と製品品質の最適化を目指します。

詳細

還流バイオリアクター市場は、特に人工知能（AI）制御の統合により、大幅な成長を経験すると予測されており、2030年までに推定48.5億ドルの評価額に達し、年平均成長率（CAGR）20.8%を記録すると見込まれています。この著しい拡大は、AIを活用したバイオ製造ソリューションへの投資増加、細胞・遺伝子治療の需要拡大、および連続製造プロセスの幅広い採用によって推進されています。

この市場を形成する主要なトレンドには、AI駆動の還流制御システムの広範な使用、連続細胞培養技術の進歩、そしてリアルタイムのプロセス最適化と収量一貫性への重点的な取り組みが含まれます。AIの組み込みは、精密なアルゴリズム制御を通じて、プロセスの効率を向上させ、生産コストを削減し、細胞増殖と製品品質を最適化することを目的としています。さらに、高度なバイオプロセス技術に対する規制承認の増加が、洗練されたスケーラブルな製造プラットフォーム向けのより迅速で信頼性の高い生産ワークフローを可能にすることで、市場の成長を加速させています。

元記事: #

ドイツの精密発酵成分市場、2035年までにCAGR28-34% で急成長の見込み

公開日 2026年05月01日 IndexBox ドイツ



概要

ドイツの精密発酵成分市場は、2026年に約1.8億~2.5億ユーロと評価され、2035年までに18億~25億ユーロに急増し、年平均成長率（CAGR）28~34%を示すと予測されています。この力強い成長は、AI駆動の菌株設計とハイスループットスクリーニングの進歩に大きく起因し、開発期間を大幅に短縮し、新規成分開発者にとっての参入障壁を低くしています。連続発酵および還流バイオリクター技術が大きな牽引力となっています。

詳細

ドイツの精密発酵成分市場は、2026年時点で約1億8000万~2億5000万ユーロと評価されており、2035年までには18億~25億ユーロに急増すると予測されています。これは、年平均成長率（CAGR）で28%~34%という目覚ましい成長を示しています。この堅調な成長は、主にAI駆動の菌株設計やハイスループットスクリーニングにおける進歩に起因しており、これにより開発期間が大幅に短縮され、新規成分開発者の参入障壁が低くなっています。

連続発酵および還流バイオリクター技術は、大きな牽引力を得ており、少なくとも3つのドイツの受託製造組織（CMO）が大規模な還流対応システムへの投資を約束しています。この能力拡大にもかかわらず、国内生産は2035年までに需要の30%~35%しかカバーできないと予想されており、引き続き輸入への依存が続くことを示唆しています。報告書はまた、2035年までに商品精密発酵タンパク質の生産コストが40%~55%大幅に削減され、特定の用途では従来の農業タンパク質とのコストパリティを達成することを目指していると予測しています。

元記事: #

サムスンバイオロジクス、韓国バイオテックの未来を再形成する大規模な動きを発表

公開日 2026年05月07日 Various News Sources (e.g., News1 cited in snippet) 韓国



概要

サムスンバイオロジクスは、2027年7月に仁川松島国際都市に開設予定のオープンイノベーションセンター「C-Lab Outside」の運営計画を発表しました。この施設は12,000平方メートルに及び、スタートアップ企業にオフィスや研究施設を提供します。この取り組みは、有望な韓国のバイオテック企業がグローバル市場に参入する機会を大幅に増やし、国内のバイオテックエコシステムの成長を促進することを目的としています。

詳細

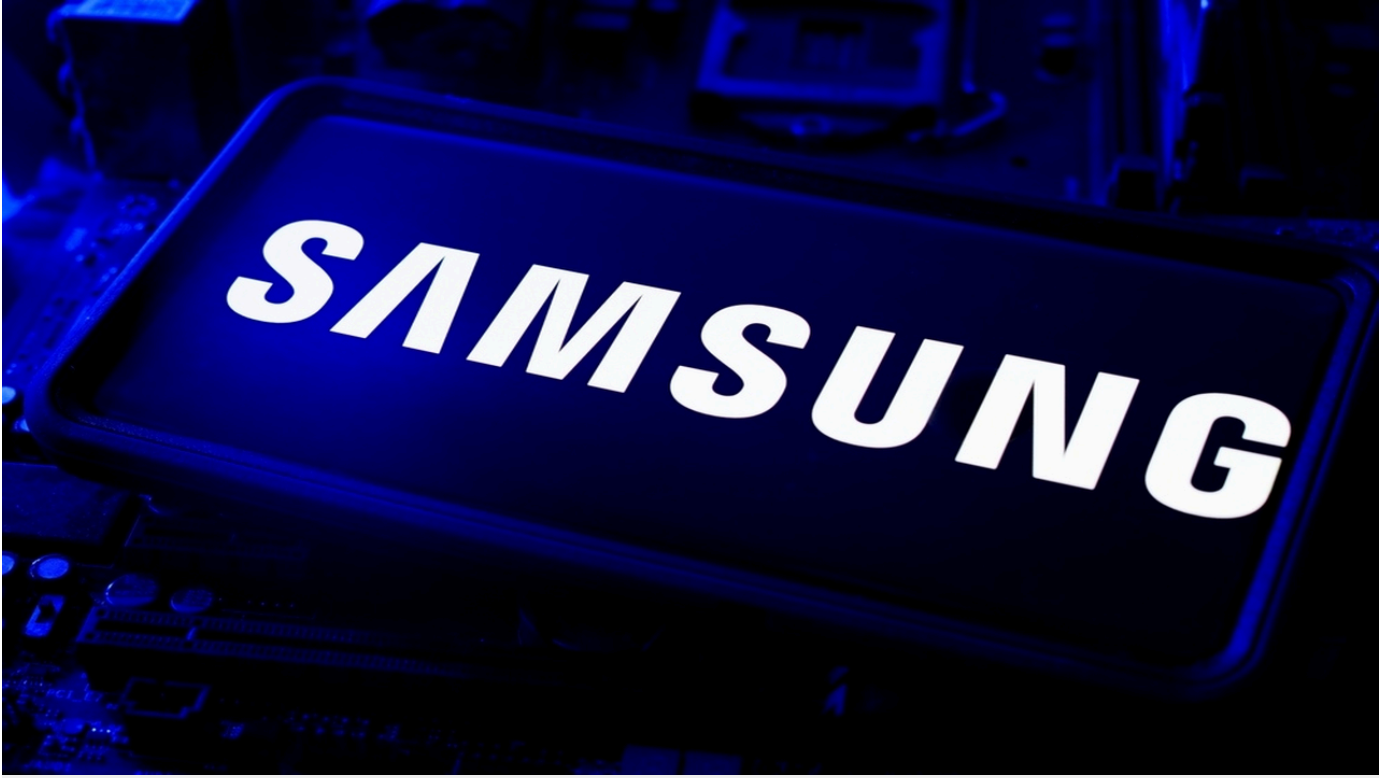
サムスンバイオロジクスは、2027年7月にサムスンバイオロジクス第2バイオキャンパス内の松島国際都市に開設予定のオープンイノベーションセンター「C-Lab Outside」の運営ロードマップを発表しました。この5階建ての施設は12,000平方メートルに及び、最先端のオフィススペース、研究施設、会議室を提供します。入居企業は第4四半期に募集が開始され、シリーズB以前の初期段階のスタートアップ企業を対象としており、すでにグローバル製薬大手と提携している企業は除外されます。入居期間は2年から4年となります。

Bio Korea 2026で発表されたこのイニシアチブは、有望な韓国のバイオテック企業がグローバル市場に参入する機会を大幅に増やし、国内のバイオテックエコシステムの成長を促進することを目的としています。これには、2500億ウォン（約1億6900万米ドル）の産業開発基金が含まれています。

元記事: #

サムスンバイオロジクス、ダウ・ジョーンズ「ベスト・イン・クラス・ワールド・インデックス」に5年連続で選出

公開日 2026年05月05日 PR Newswire 韓国



概要

サムスンバイオロジクスは、ダウ・ジョーンズ「ベスト・イン・クラス・ワールド・インデックス」（旧ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス）に5年連続で選出され、持続可能な成長と責任ある事業慣行へのコミットメントが再確認されました。同社は、マルチスペシフィック抗体、融合タンパク質、抗体薬物複合体、mRNA治療薬などの多様なモダリティを進化させるため、最先端技術を活用しています。ExellenS™フレームワークを用いて製造ネットワーク全体でプラントの同等性とスピードを確保し、顧客への柔軟性と俊敏性を提供しています。

詳細

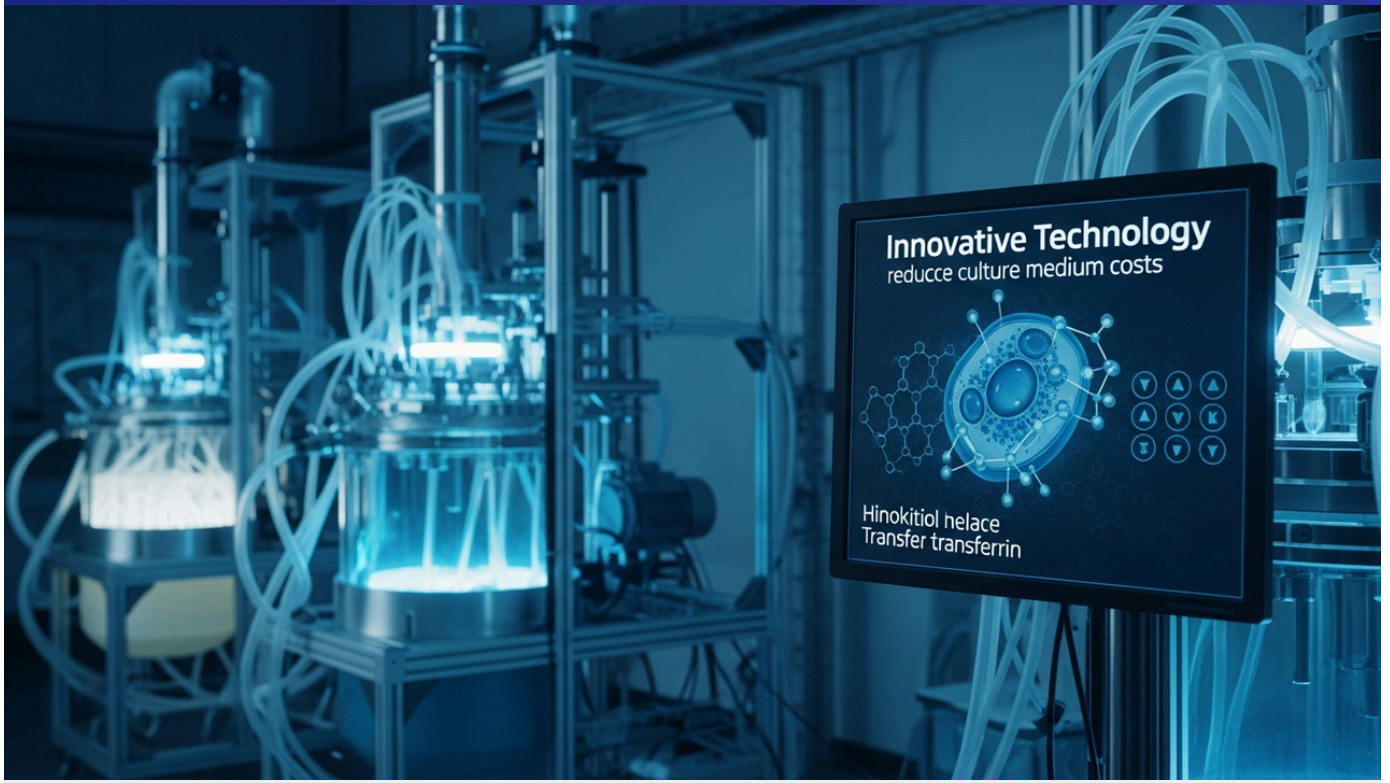
サムスンバイオロジクスは、ダウ・ジョーンズ「ベスト・イン・クラス・ワールド・インデックス」（旧ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス）に5年連続で選出されました。この評価は、同社が持続可能な成長と責任ある事業慣行にコミットしていることを再確認するものです。同社は、世界の投資家やステークホルダーからの進化する期待に積極的に対応し、マルチスペシフィック抗体、融合タンパク質、抗体薬物複合体、mRNA治療薬など、多様なモダリティを進化させるために最先端技術を活用していることを強調しています。

サムスンバイオロジクスは、ExellenS™フレームワークを製造ネットワーク全体で活用し、標準化された設計、統一されたプロセス、高度なデジタル化を通じて、プラントの同等性とスピードを確保しています。また、同社は運用および品質の卓越性を最大化するための新たな能力への投資を継続しており、顧客に対する柔軟性と俊敏性を確保しています。

元記事: #

味の素、細胞性食品の培地コスト低減に新技術 ヒノキチオールでトランスフェリン代替へ

公開日 2026年05月07日 Foovo 日本



概要

味の素は、細胞性食品（培養肉）の生産コストを大幅に削減するため、細胞培養培地中のトランスフェリンをヒノキチオールで代替する新技術を開発しました。同社はバイオ医薬品・再生医療用培地事業の専門知識を活かし、細胞性食品のバリューチェーンへの参入を目指します。高価な培地コストは培養肉製造の大きな課題であり、味の素の植物由来成分は商業化を加速する可能性を秘めています。

詳細

味の素株式会社は、細胞性食品（培養肉）の生産コストを大幅に削減することを目指し、細胞培養培地中のトランスフェリンをヒノキチオールで代替する新しい技術を開発しました。同社は、バイオ医薬品および再生医療用培地事業で培った専門知識を活用し、培地と培養プロセスに焦点を当てて、細胞性食品のバリューチェーンへの参入を計画しています。

高い培地コストは、細胞性食品の製造費用を押し上げる主要な要因であり、味の素が開発した植物由来の培地成分は、商業化を加速する潜在的な触媒となります。この進展は、日本国内で培養肉生産をスケールアップしようとする動きが強まる中で実現しました。他の企業や研究グループも、中空糸を用いた厚みのある細胞性鶏肉の開発や、ウナギ脂肪用細胞株の確立などの分野で進歩を遂げています。Foovoの記事は、培養肉の広範な普及に必要なコスト削減と技術革新という、より広範な業界トレンドを強調しています。

元記事: #

VectorBuilder、「MiniVec™」プラスミドシステムで欧州特許を取得

公開日 2026年05月04日 PR TIMES (VectorBuilder Japan) 日本



概要

遺伝子デリバリー技術とCDMOサービスの世界的リーダーであるVectorBuilderは、次世代プラスミド骨格「MiniVec™ プラスミドシステム」の欧州特許を取得したと発表しました。この革新的なシステムは、遺伝子・細胞治療およびDNAワクチン開発における安全性と製造効率の向上を目指します。不要な細菌配列を最小限に抑える小型化されたベクター骨格設計が特徴で、製造コスト削減と規制遵守に貢献します。

詳細

遺伝子デリバリー技術およびCDMOサービスにおける世界的リーダーであるVectorBuilderは、次世代プラスミド骨格である「MiniVec™ プラスミドシステム」の欧州特許を取得したことを発表しました。この革新的なシステムは、遺伝子および細胞治療、ならびにDNAワクチンの開発において、安全性と製造効率を向上させることを目指しています。

MiniVec™は、不要な細菌配列を最小限に抑える小型化されたベクター骨格設計を特徴としており、抗生物質や化学添加物への依存を低減します。この設計は製造効率を高め、治療用途での高い性能を保証し、高度な遺伝子医療の製造コスト削減、安全性向上、および規制遵守に貢献します。VectorBuilderの最高科学責任者であるブルース・ラーン博士は、MiniVec™が設計当初から安全性、一貫性、製造性を念頭に置いて設計されており、初期のプラスミド設計から生じる多くの製造上および規制上の課題に対処していると述べました。

元記事: #

シングルユースバイオプロセッシング市場、2035年に1229億2000万米ドル規模へ拡大 革新的バイオ製造を加速する CAGR15.1%成長ドライバー

公開日 2026年05月06日 NEWSCAST (Report Ocean press release) 日本



概要

シングルユースバイオプロセッシング市場は、2035年までに1229億2000万米ドルに達すると予測されており、2026年から2035年にかけてCAGR 15.1%で成長します。この成長は、細胞・遺伝子治療を含む先進的なバイオ医薬品への需要増加に牽引されており、CDMOは柔軟で費用対効果の高い製造ソリューションとしてディスプレイザブルシステムを導入しています。アジア太平洋地域は、政府の支援と医療費の増加により主要な成長拠点となっています。

詳細

シングルユースバイオプロセッシング市場は、2035年までに1229億2000万米ドルの規模に達すると予測されており、2026年から2035年にかけて年平均成長率（CAGR）15.1%で成長すると見込まれています。この成長は、特に細胞・遺伝子治療のような先進的なバイオ医薬品への需要増加によって推進されており、これらは柔軟で費用対効果の高い製造ソリューションを必要とします。

受託開発製造機関（CDMO）は、製薬およびバイオテクノロジー企業からのアウトソーシング需要の増加に対応するため、ディスポーザブルバイオプロセッシングシステムの採用を加速しています。アジア太平洋地域は、政府の製薬製造プログラムへの支援、医療費の増加、およびバイオ医薬品需要の拡大に牽引され、主要な成長ハブとして注目されています。市場参加者はまた、技術の差別化と顧客基盤の拡大を図るため、戦略的なM&A、新製品の発売、および研究協力を積極的に取り組んでいます。これに加え、環境規制と持続可能性への懸念に対応し、リサイクル可能な使い捨て材料と環境に優しい製造プロセスの開発も進められています。

元記事: #

がん免疫療法市場、2035年に3635億米ドル到達へ 個別化医療と次世代細胞療法の普及で年平均成長率9.02%を記録

公開日 2026年05月08日 アットプレス (atpress, Report Ocean press release) 日本



概要

がん免疫療法市場は、2025年の1532.7億米ドルから2035年には3635億米ドルに拡大し、2026年から2035年にかけてCAGR 9.02%で成長すると予測されています。この成長は、世界の癌罹患率の増加、個別化医療の需要の高まり、および主要製薬企業による免疫チェックポイント阻害剤やCAR-T療法への投資によって推進されています。アジア太平洋地域は、癌治療インフラへの投資加速により最高の成長率を示すと予想されます。

詳細

がん免疫療法市場は、今後10年間で大きく変革すると予想されており、2025年の1532.7億米ドルから2035年には3635億米ドルに達し、2026年から2035年にかけて年平均成長率（CAGR）9.02%を記録すると予測されています。この成長は、世界の癌罹患率の増加、標的型バイオ医薬品の普及拡大、個別化医療に対する需要の高まりによって推進されています。

主要な牽引力には、主要製薬企業による免疫チェックポイント阻害剤、CAR-T療法、モノクローナル抗体、および個別化腫瘍治療プラットフォームへの投資が含まれます。中国、日本、韓国を含むアジア太平洋地域は、癌治療インフラとバイオ医薬品製造能力への投資加速により、2035年までに最高の成長率を示すと予想されています。また、AIとバイオインフォマティクスのがん研究への統合は、免疫療法に対する患者の反応を正確に予測することを可能にすることで、個別化医療の開発を加速させています。

元記事: #

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

BIO KOREA 2026、59カ国から775社が参加しグローバルプラットフォームとしての地位を確立

公開日 2026年05月04日 Yonhap News 韓国



概要

韓国最大のバイオヘルスイベント「BIO KOREA 2026」は、59カ国から775社が参加し、成功裏に閉幕しました。このイベントは4月28日から30日までソウルのCOEXで開催され、グローバル製薬企業や投資機関の参加が拡大し、真の協力プラットフォームとしての地位を確立しました。ビジネスパートナーリングプログラムは参加者が前年比45%増となり、技術移転、共同研究、投資に関する1,886件の会議が開催されました。

詳細

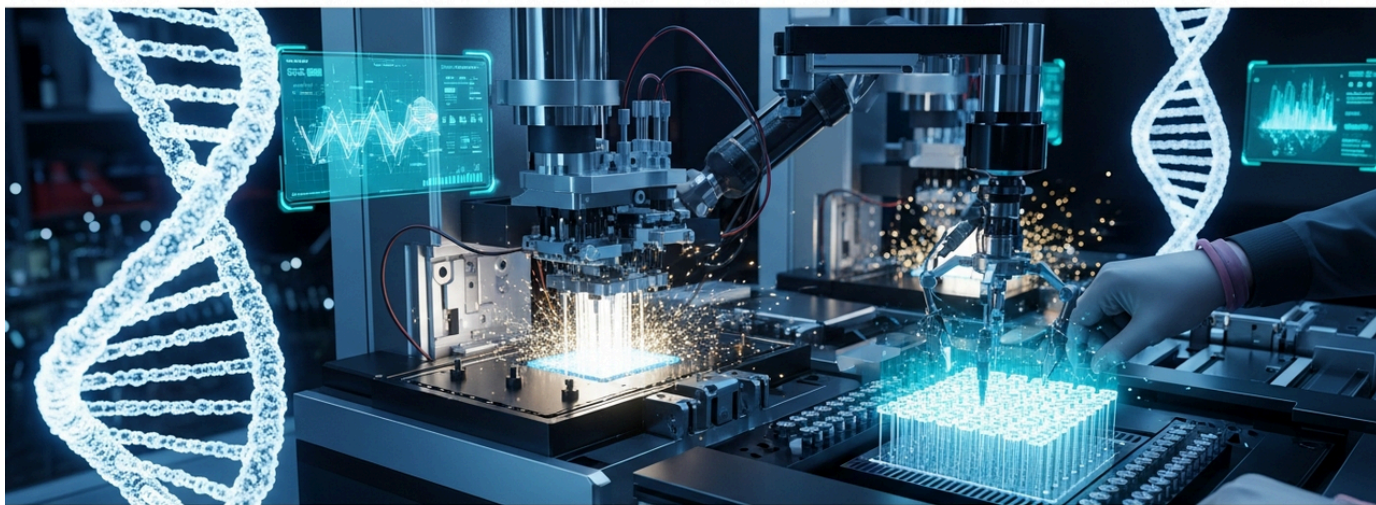
韓国最大のバイオヘルスイベントである「BIO KOREA 2026」は、59カ国から775社が参加し、成功裏に閉幕しました。4月28日から30日までソウルのCOEXで開催されたこのイベントでは、グローバル製薬企業や投資機関からの参加が拡大し、真の国際的な協カプラットフォームとしての地位を確立しました。

中核となるビジネスパートナーリングプログラムは著しい成長を遂げ、34カ国669社から858名が参加し、前年比で45%増加しました。合計1,886件の会議が開催され、技術移転、共同研究、投資に関する活発な議論が促進されました。バイエル、GSK、イーライリリー、アムジェン、ジョンソン・エンド・ジョンソン、ベーリンガーインゲルハイム、MSD、ロシュ、ノバルティス、アッヴィ、ロンザといった主要なグローバル製薬企業が参加しました。特に、リリー、MSD、ロシュ、ベーリンガーインゲルハイム、武田薬品工業は、韓国の技術を探求するため3年連続で参加しています。

元記事: #

DNAシーケンシング市場、2035年に886億米ドル到達 精密医療とバイオテクノロジー革新を牽引する CAGR17.62%の高成長トレンド

公開日 2026年05月07日 NEWSCAST (Report Ocean press release) 日本



概要

世界のDNAシーケンシング市場は、2025年の約175億米ドルから2035年には886億米ドルに拡大し、CAGR 17.62%で成長すると予測されています。この急速な成長は、精密医療、がん診断、個別化治療の進歩に牽引されています。シーケンシングコストの低下とバイオインフォマティクス技術の進歩も市場を後押しし、AIとバイオインフォマティクスの統合がシーケンシング効率をさらに高めています。

詳細

世界のDNAシーケンシング市場は、大幅な変革を遂げると予測されており、2025年の約175億米ドルから2035年までに886億米ドルに拡大し、予測期間中に年平均成長率（CAGR）17.62%という目覚ましい成長を示すと予想されています。この急速な成長は、精密医療、がん診断、個別化治療の進歩によって推進されており、世界的に医療投資の優先順位が再設定されています。

製薬メーカー、バイオテクノロジー企業、臨床検査機関は、疾患検出および新薬発見プロセスに次世代シーケンシング技術を迅速に採用しています。シーケンシングコストの低下とバイオインフォマティクス技術の進歩は、ゲノムベースの臨床応用拡大と相まって、政府や医療機関がゲノムインフラを強化する動きを促します。AIとバイオインフォマティクスの統合はシーケンシング効率をさらに高め、企業は自動化されたワークフロー、機械学習アルゴリズム、クラウド対応ゲノムデータベースに投資して、リアルタイムの臨床意思決定をサポートしています。

元記事: #

細胞培養市場、2033年までに505.4億米ドルに到達予測

公開日 2026年05月05日 openPR.com (Datam Intelligence press release) グローバル



概要

世界の細胞培養市場は、2025年の191.3億米ドルから2033年までに505.4億米ドルに達し、2026年から2033年にかけてCAGR 12.94%で成長すると予測されています。この成長は、バイオ医薬品産業の急速な成長、生物学的製剤や細胞ベース治療の需要増加、ワクチン生産および再生医療への投資拡大に大きく起因しています。3D細胞培養技術、無血清培地、シングルユースバイオプロセッシングシステムの採用も市場を牽引しています。

詳細

世界の細胞培養市場は、2025年に191.3億米ドルと評価され、2033年までに505.4億米ドルに達すると予測されており、2026年から2033年にかけて年平均成長率（CAGR）12.94%で成長します。この拡大は、急速に成長するバイオ医薬品産業、生物学的製剤および細胞ベースの治療に対する需要の増加、ならびにワクチン生産および再生医療への投資の増加に大きく起因しています。

このレポートでは、富士フイルムホールディングスが2026年7月に日本およびアジア太平洋地域で細胞培養培地およびバイオプロセッシング能力を拡大し、再生医療およびワクチン生産をサポートしたことが強調されています。さらに、ザルトリウスAGは2026年初頭にアジア太平洋地域のバイオテクノロジー企業および製薬企業との協業を強化し、高度な生物学的製剤製造のためにスケーラブルなシングルユースバイオリクターおよび自動化された細胞培養プラットフォームを展開しました。市場はさらに、3D細胞培養技術、無血清培地、およびシングルユースバイオプロセッシングシステムの採用によって推進されており、これらが生産性とスケーラビリティを高めています。

元記事: #

再生医療を未来へつなげる挑戦 ～セルリソース(株)×韓国 CDMO企業ENCellの協業を通じて～

公開日 2026年05月08日 PR TIMES (via エキサイト - Excite News, and アルフレッサ ホールディングス株式会社 - Alfresa Holdings Corporation) 日本



概要

アルフレッサグループのセルリソース株式会社は、韓国の細胞・遺伝子治療（CGT）CDMOであるENCell Co., Ltd.との戦略的提携を発表しました。この提携は、相互の顧客紹介を通じてそれぞれの市場で新たなビジネス機会を拡大することを目的としています。ENCellは韓国CGT CDMO市場の約60%を占め、幹細胞、CAR-T、ウイルスベクターなど様々なCGT製品のワンストップ製造を提供しています。

詳細

アルフレッサグループの再生医療関連会社であるセルリソーシズ株式会社は、細胞・遺伝子治療（CGT）製品の開発と製造を専門とする韓国のリーディングCDMO企業であるENCell Co., Ltd.との戦略的提携を発表しました。この提携は、相互の顧客紹介を通じて、それぞれの市場における新たなビジネス機会の拡大を目指しています。

2018年にサムスン医療センターから設立されたENCellは、韓国のCGT CDMO市場で約60%のシェアを占め、幹細胞、CAR-T、NK細胞、エクソソーム、レンチウイルス、アデノ随伴ウイルス（AAV）ベクターなど、様々な細胞・遺伝子治療薬のワンストップ製造を提供しています。このパートナーシップには、セルリソーシズが「EN001」などのENCellのパイプラインを日本の製薬会社に紹介すること、およびENCellが市場分析、事業戦略、施設運営、製造能力などの分野でセルリソーシズに助言および技術サポートサービスを提供することが含まれます。この提携は、再生医療の研究、開発、製造を支援することで、アルフレッサグループの企業価値の長期的な向上に貢献し、最終的には患者さんの治療選択肢を拡大することが期待されています。

元記事: #

EirGenix、CPHIジャパンに出展し日本での戦略的基盤を強化

公開日 2026年05月07日 PR Newswire (via 台湾産経新聞網 - Taiwan Business News Network)
台湾



概要

グローバルバイオ医薬品CDMOのEirGenixは、CPHI Japan 2026に出展し、日本市場での長期的な地位を固めるため積極的に展開しています。日本の政策進化とサプライチェーン変革に影響され、世界のバイオ医薬品産業が急速な再編を経験する中での動きです。EirGenixは、日本市場での深い理解を活かし、技術移転やバックアップ生産能力の取り決めを含む、より深い製造協業を模索する計画です。

詳細

グローバルバイオ医薬品CDMOであるEirGenixは、CPHIジャパン2026への出展を通じて、日本市場における長期的な地位を確固たるものにするため、積極的な拡大戦略を展開しています。この動きは、日本の政策の進化とサプライチェーンの変革に影響を受け、世界のバイオ医薬品産業が急速な再編を経験している時期に行われます。

日本の厚生労働省（MHLW）および医薬品医療機器総合機構（PMDA）は、バイオシミラーの開発を加速するための強力な規制枠組みを確立しており、一方で地政学的リスクは国内生産能力の重要性を強調しています。EirGenixは、長年にわたる日本クライアントとの協業で培った、現地のコミュニケーションスタイルや市場の嗜好に関する深い理解を活用することを目指しています。同社は、パートナーシップの規模と市場の需要に基づいて、技術移転やバックアップ生産能力の取り決めを含む、より深い製造協業を探索する計画です。

元記事: #

Maravai、2026年第1四半期に売上高41%増で黒字転換を達成

公開日 2026年05月08日 Investing.com 米国



概要

Maravai LifeSciences (NASDAQ:MRVI)は、2026年第1四半期にウォール街の予想を大幅に上回る堅調な財務結果を発表しました。売上高は前年比41%増の6580万ドルに達し、調整後1株当たり利益（EPS）は0.01ドルとなり、市場予測の0.05ドルの損失から黒字転換しました。この好調な業績は、細胞・遺伝子治療市場におけるCygnus製品の確固たる存在感に一部起因しています。

詳細

Maravai LifeSciences (NASDAQ:MRVI)は、2026年第1四半期の堅調な財務結果を発表し、ウォール街の予想を大幅に上回りました。売上高は前年同期比41%増の6580万ドルに達し、調整後1株当たり利益（EPS）は0.01ドルとなり、市場予測の0.05ドルの損失から黒字転換しました。Maravaiの力強い業績は、細胞・遺伝子治療市場における同社の確固たる存在感に一部起因しており、そのCygnus製品は、FDAまたはEMA承認のCAR-T細胞・遺伝子治療すべて（29製品）で利用されています。

Cygnus部門は1840万ドルの収益に貢献し、北米およびEMEAでの強い需要に牽引され、前年同期比1%の成長を示しました。さらに、同社の独自のmRNA技術プラットフォームであるModTailは、GMPグレード材料への需要の高まりとともに、採用が増加しています。

元記事: #